

歴史を感じる 大高酒蔵めぐり



神の井酒造

先日、緑区の大高に行ってきましたので、そのレポートを書きたいと思います。

意外と知られていないのですが、名古屋市内でも酒造りが行われており、そのうち3軒の酒造が大高にあります。



山盛酒造

JR大高駅を降りて西南へ10分ほど歩くと大高川があり、川を越えると昔ながらのまちが広がっています。まちの中は、時間がゆるやかに流れているようで、別世界に迷い込んだような雰囲気です。

大高川沿いには、神の井酒造があります。ここでは、「神の井」などのお酒を作っています。創業は、安政3年（1856年）で、通りに面した建物は、創業当時からのものと聞きました。また、奥には、大正初年に作られたという酒蔵があり、現在もそこで酒造りが行われています。



萬乗醸造

神の井酒造から、西へ進むと山盛酒造があります。山盛酒造は、明治20年（1887年）創業で、主銘柄「鷹の夢」などを作っている酒造です。近年、女性の杜氏さんがいることで話題になったところです。山盛酒造には、昔ながらの大きな酒蔵がたくさん残り、酒蔵のまち大高の景観をつくり出しています。

神の井酒造と山盛酒造は、毎年2月の最終日曜日が酒蔵開放日になっており、その日は誰でも見学ができ、しばらくたての新酒を飲むことができます。

山盛酒造から南へ歩くと、「醸し人九平次」という銘柄で有名な萬乗醸造があります。大きな酒蔵や煉瓦造の煙突が印象的で、一連の建物は、国の登録文化財になっています。ここは、日本酒業界に新たな風を起こしている酒造で、海外にも積極的に日本酒を紹介し、ここのお酒がパリの三つ星レストランでも採用されているとのこと。

このほかにも大高には、桶狭間の戦いの前哨戦で、信長軍が拠点とした丸根砦や鷲津砦、若き日の徳川家康が信長軍の包囲網を突破し、兵糧入れを行ったという大高城址（すべて、国の史跡になっています）があったり、少し足を延ばすと、日本武尊（やまとたける）の妃で草薙の剣を託された宮簀媛命（みやすひめのみこと）を祭る氷上姉子神社などもあります。氷上姉子神社と熱田神宮との関わりは深く、宮簀媛命が晩年、草薙の剣を熱田の地へ奉じたことが熱田神宮の始まりといわれています。

このように大高は、神話の時代から近世、そして現代まで、様々な歴史の舞台になった地です。

天気のいい日にちょっと出かけて、歴史を感じながら大高のまちをぜひ散策してみませんか？ (Miho)

